

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（総括研究報告書）

科学的根拠に基づくがん情報の提供及び均てん化に向けた体制整備に資する研究

研究代表者 若尾 文彦 国立がん研究センターがん対策情報センター本部（副本部長）

研究要旨

本研究では、がんを心配して情報を探し始める場面から適切にがん拠点病院等で、患者らが正しい情報を入手できるよう、

1. がん関連機関の情報連携環境の構築をもとにした“信頼できる情報群”からなる相談員や医療者向け情報支援データベースの整備

2. 患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報検索システムの検討及び検証

3. がん診断時等の患者にがん診療施設で適切に情報提供する方策の検討

の3つの観点から、科学的根拠に基づく情報の提供及び均てん化に向けた体制整備と方策を提言する。

(1) 医療者向けの情報支援データベースの整備として、原型となるプラットフォーム案の作成、人工知能を活用したがん情報検索システム、薬剤情報等の詳細情報へのリンクの検討を行った。(2) 患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報検索システムの検討及び検証では、利用者の検索パターンの検討および情報にアクセスしやすい情報検索システムの検討を行った。(3) がん診断時等の患者にがん診療施設（がん非拠点病院を含む）で適切に情報提供する方策の検討では、がん診断時等にがん診療施設で効果的に情報提供する方策に関する検討をおこなった。

(1) 医療者向けの情報支援データベースの整備では、ガイドラインの横断的検索システムと生成AIを連携することで、相談員に有用な情報支援データベースの実現の可能性があること、製薬企業の薬剤情報は、正確かつ新鮮な情報源として、大きな期待がされるが、患者への直接提供には、薬機法等の解釈の見直しが必要であると考えられた。(2) 患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報検索システムの検討及び検証では、情報が増大する中、アクセス目的別のページ誘導、ページ構成の工夫や情報を絞った分かりやすいページ群が有用であると考えられる。さらに、情報の入り口となる検索エンジンに適切な情報への誘導する仕組みが必要であると考えられた。(3) がん診断時等の患者にがん診療施設

（がん非拠点病院を含む）で適切に情報提供する方策の検討では、各地域や施設ごとに置かれた状況はさまざまであるなか、好事例となる事例を収集し、提示する事により、がん診療連携拠点病院内外における適切な情報提供の方策が検討できると考えられた。

A. 研究目的

科学的根拠に基づく情報を迅速に国民に提供し、適切な活用につなげるには、持続可能な作成体制、質が担保された情報にたどり着きやすくする仕組み、正しい情報の活用を促す支援環境の整備が必要であり、一部のみではなし得ない。先行研究班（厚労科研20EA1008）では、がん関連機関の連携による持続可能な情報作成体制の構築に必要な諸条件の検討を行ってきた。この中で、情報作成では「がん情報サービス」の基本的かつ広範な情報、学術団体の専門性の高い情報、製薬企業の迅速かつ正確な薬剤情報、公益財団の公益性に基づく情報収集と提供等といった得意領域がある一方で、情報の提供・普及に関して各々が課題を抱えていること、科学的根拠に基づく情報が散在し、利用者の検索や情報評価に負荷がかかっていることが示された。この状況を解消する情報作成から提供・活用・普及までを視野に入れたがん関連機関の情報連携環境を構築し、実装案を示していくことが必要である。

本研究では、がんを心配して情報を探し始める場面から適切にがん拠点病院等で、患者らが正しい情報を入手できるよう、

1. がん関連機関の情報連携環境の構築をもとにした“信頼できる情報群”からなる相談員や医療者向け情報支援データベースの整備

2. 患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報検索システムの検討及び検証

3. がん診断時等の患者にがん診療施設で適切に情報提供する方策の検討

の3つの観点から、科学的根拠に基づく情報の提供及び均てん化に向けた体制整備と方策を提言する事を目的とする。

B. 研究方法

本研究では、1) がん関連機関の情報連携環境の構築をもとにした“信頼できる情報群”からなる相談員や医療者向け情報支援データベースの整備、2) 患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報検索シ

システムの検討及び検証、3) がん診断時等の患者にがん診療施設で適切に情報提供する方策の検討について、それぞれの研究グループで検討した。その結果を統合し、本総括報研究報告書としてまとめた。

(1) がん関連機関の情報連携環境の構築をもとにした“信頼できる情報群”からなる相談員や医療者向け情報支援データベースの整備では、原型となるプラットフォーム案の作成として、将来的な医療者向けの情報支援データベースの構築および検索システムの構築を目指した。現在発行されているがんに関する各種ガイドラインの横断的検索システムへの利用に資するための調査を行った。さらに、パイロット的にシステムを構築した上で、システムの開発に際して解決すべき点を検討した。

人工知能を活用したがん情報検索システムの検討として、生成AIを用いた医療情報検索及び評価、生成AIを使って医療情報を収集・活用する際にはどのような問題が生じるのかを、検討するために、いくつか典型的な質問をOpenAIのChatGPTに回答させてみて、その回答を検討した。

また、参照する情報源を限定した生成AIチャットボットによるがん情報提供のハルシネーション排除の可能性について検討した。将来的な人工知能を用いた信頼性の高いがん情報の提供を目指し、「ChatGPT 自体（参照先を指定しない）」に対して「国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」、「Google 検索エンジンにより上位に掲出されたWebサイト」の3種類を参照する情報源とした生成AIチャットボットを試作しその返答を比較した。

製薬企業が提供するがん薬剤情報サイトへのリンクの現状及び課題について、血液悪性腫瘍を取り上げ、研究班ウェブサイト製薬企業が運営する患者向けウェブサイトのリンク集を掲載し、さらに「がん情報サービス」から研究班サイトへのリンクを設置したうえで利用状況等を検証した。

(2) 患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報検索システムの検討及び検証において、以下の利用者の検索パターンの検討を行った。

一般市民におけるがんと診断された場合の補完代替療法の利用意向に関する実態では、一般市民を対象としたWeb調査により、がん治療の補完代替療法のうち日常生活でも広く用いられている内容について利用経験とそれらに対する認識を把握した。

「がん情報サービス」利用者調査アクセス目的別の情報の探索・入手状況調査に基づく検討において、「がん情報サービス」の利用者調査のデータを用いて、アクセス目的別に探していた情報や入手できなかった情報を整理し、Webを通じたがんに関する情報提供の課題を検討した。

患者・家族のニーズに基づく情報提供のあり方の解

明において、がん患者・家族の様々な情報ニーズに基づく情報提供のあり方を検討した。がん情報サービスの【治療と生活】に含まれるページ群の情報を絞った分かりやすいページ群を作成した。また、患者の意思決定支援を行う看護師へのヒアリングを計画し、ヒアリングガイドを作成した。

信頼できる情報にたどり着きやすい仕組みづくりのための検討において、情報検索会社との連携による取り組みを行った。情報検索会社と連携して、がん患者や家族等ががんに関する情報をインターネットで検索した際に、がん情報サービスの正確な情報にたどり着きやすくするための検討および効果の測定・評価を行った。

(3) がん診断時等の患者にがん診療施設で適切に情報提供する方策として、がん診断時等にごん診療施設で効果的に情報提供する方策に関し検討を行った。

がん診療連携拠点病院内外における適切な情報提供の方策に関して、患者らにごん情報を適切に届ける連携活動の背景となっている体制や仕組みを考察し、今後の検討の視点を明確にすることを検討した。また、山形県・福岡県・宮崎県およびがん診療連携拠点病院等の施設の取り組みとしての好事例を収集して検討した。

(倫理面への配慮)

本研究は、患者のヘルシンキ宣言（世界医師会）の精神と『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』（文部科学省・厚生労働省）に従い実施した。

## C. 研究結果

(1) がん関連機関の情報連携環境の構築をもとにした“信頼できる情報群”からなるデータベース整備：原型となるプラットフォーム案の作成として、相談員や医療者向け情報支援データベースの整備

現在発行されているがんに関する各種ガイドラインの横断的システムへの利用に資するための調査を行った。その結果、がんに関するガイドラインの3分の1程度の資料について、横断的に検索するシステムのデータベースとして使用することができること、さらにサイト内検索用いることにより、検索ワードに対して関係性の高いページの結果一覧を取得することが可能であった。一方、ガイドラインのWeb掲載におけるファイル形式の問題や検索結果からさらに情報を取得する必要性などの問題点が把握された。

生成型人工知能による情報提供に関する検討では、生成AIを用いた医療情報検索及び評価において、医療上の統計に関する質問、病院情報に関する質問、社会制度に関する質問の3者において、統計上の専門的な用語の質問にはあまり正確に答えられないことが明らかになったものの、インターネット上に存在すると考えられる情報については、概ね正確に回答が返されることが分かった。しかし、余計な文章が入っていた

り、回答に含める情報の選定基準があまりはっきりしないなどの問題があり、それが、インターネット検索と違って気が付きづらいことが明らかとなった。また、確かながんに関する情報群を参照情報として限定した生成AIチャットボットは、ハルシネーションを減少できる利点を認めた。しかし、科学的エビデンスのない情報に対してその説明や理由を返答することはなく、結果的に返答できる範囲が限定され、参照する情報源となるWebサイト自体のテキストの工夫や質問内容に対するプロンプトの改良が現状では必要であることが分かった。

がん情報サービスから研究班サイト、研究班サイトから製薬企業サイトへのリンク設置前後のアクセス数を比較すると、いずれも増加していたが、詳細な薬剤除法・副作用情報を含サイトは限られていた。

(2) 患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報検索システムの検討及び検証として利用者の検索パターンを検討した結果、一般市民におけるがんと診断された場合の補完代替療法の利用意向に関する実態として、一般市民の日常生活でも広く用いられ、かつ認知度が高い療法と、利用経験・認知度が低い療法とに大別された。がん診断時において、利用経験・認知度が低い項目についても利用の希望があった。補完代替療法を利用したい理由として「がんを完治することができるかもしれない」との回答が全体の4割を上回った。この返答の割合は、最終学歴や現在の健康状態、家族のがんと診断された経験の有無を含む本研究で検討した背景因子による差異は認めなかった。

「がん情報サービス」利用者調査アクセス目的別の情報の探索・入手状況調査に基づく検討として、「がん情報サービス」の利用者調査のデータを用いて、アクセス目的別に探していた情報や入手できなかった情報を整理した。その結果、探していた情報が「ほぼ全て手に入った」「一部は手に入った」と回答した人の合計は、全体で約90%だった。一方で、「情報を全て入手できた」人はアクセス目的別で異なった。アクセス目的別において、「入手できなかった情報」が全回答者の回答割合と比して5%程度高かったのは、アクセス目的が「自分のがんについて知るため」で「治療の副作用」(19.7%)、「治療後/退院後の生活の情報」(17.9%)、アクセス目的が「家族のがんについて知るため」で「診断後の生活の情報」(16.3%)だった。「がん情報サービス」を通じた情報提供では、全体としては利用者が探していた情報は概ね届いていると評価できると考えられた。しかし、アクセス目的別に、情報の入手状況は異なっており、「自分のがんについて知るため」、「家族のがんについて知るため」、「友人・知人・同僚のがんについて知るため」では、探していた情報を全て入手できた人は、10%台にとどまる一方、「がんを診断されたわけではないががんや検査について知るため」では30%を超えていた。がん患者・家族の様々な情報ニーズに基づく情報提

供のあり方を検討するため、がん情報サービスの【治療と生活】に含まれるページ群の情報を絞った分かりやすいページ群を作成した。また、患者の意思決定支援を行う看護師へのヒアリングを計画し、ヒアリングガイドを作成した。今後、がんサバイバーへもヒアリングを行い、両ヒアリングの結果を基にナラティブ情報のモニタリング、研究計画の立案を行うべく、研究者、がんサバイバーの両視点で内容を精査できる環境を整えた。

信頼できる情報にたどり着きやすい仕組みづくりのための検討として、情報検索会社との連携による取り組みを行った。情報検索会社と連携して実施した適切な情報にたどりやすくするための検討において、乳がん、大腸がん、胃がん等主要ながん種6種をキーワード、病期(ステージ)をサブキーワードとして、検索結果が画像を用いてわかりやすく、かつ上位に表示されるモジュールを検討、試作し、モジュール化によるがん情報サービスへの流入数を前後1か月間比較し、モジュール化により2~28倍の増加が見られた。また、モジュールを掲出することによって、従来は流入がほとんどなく、新規で流入する検索ワードも大幅に増加していることも確認された。

(3) がん診断時等の患者にがん診療施設(がん非拠点病院を含む)で適切に情報提供する方策として、がん診断時等にごん診療施設で効果的に情報提供する方策を検討した。

がん診療連携拠点病院内外における適切な情報提供の方策に関する一考察として、これまでに行ったがん拠点病院への主に相談支援センターに関連する部署や活動についての訪問ヒアリング調査から、地域統括相談支援センターと、院内の連携体制の2点について考察を行った結果、訪問した県では、「地域統括相談支援センター」の活動は、求められるがん対策活動が多岐に及ぶ中で、県内のがん対策活動やがん拠点病院の活動にとって欠かせないものとなっていた。また、院内の相談関連窓口と院外との連携に関わる部門を有機的に機能させるために、訪問施設での連携部門を統括した体制は、好事例の一つとして示された。

山形県内および山形県立中央病院における取り組みにおいて、「がんを診断されたあなたに知ってほしいこと」の冊子を、医療者と患者がいつでも手に取れるように配置を工夫した。がん患者の入院説明時、入院説明者とがん相談員が連携し、入院説明後にごん相談員が直接がん患者へ挨拶し紹介カードの配布を実施した。院内の医療者への周知のため、電子カルテの院内掲示板で広報、医師・医療者向けチラシの配布、職員院内研修の実施、研修内容を院内研修システムにデジタルコンテンツとして掲載した。その結果、医師も患者も、がん相談支援センターの存在を認識することにつながり、がん相談件数の増加につながった。

九州がんセンターおよび、福岡県の都道府県がん診療連携拠点病院として、県全体でのがん診療連携拠点病院を巻き込んだ活動において、活発に数多く活動している背景の中、更なる発展のためには、他施設や他都道府県との情報共有を続けて改善を求めていくこと、さらに我々ががん診療連携拠点病院のがんに関する情報提供活動により、正しい情報ががん患者や家族に過不足なく届いているかの検証を常に行うことが求められることが示された。

宮崎県内および宮崎大学医学部附属病院では、サポートブック、サバイバーによる座談会、絵本朗読の三つの方法で、情報提供を試みた結果、詳細な検討は必要なものの、いずれもこれまでの方法よりも有効であった。また、患者会との合同会議は医療者とは異なった視点での意見が得られるために有用である事が示された。

#### D. 考察

(1) がん関連機関の情報連携環境の構築をもとにした“信頼できる情報群”からなる相談員や医療者向け情報支援データベースの整備

様々なレベルの相談員や医療従事者が、気軽にかつ分かりやすくガイドラインを活用する事が可能となるべくガイドラインを横断的に検索するシステムを開発するには、ガイドライン側の問題点、検索におけるシステム側の問題点を解決する必要がある。

生成AIを用いた医療情報検索において、ChatGPTは、一見もっともらしい、曖昧な返答を生成する場合がありますので、検索の代わりではなく、検索のキーワードを得る目的で、生成AIを使うのが好ましいと考えられた。生成AIについては、インターネットで流布する情報をまとめることが、生成AI回答を構成することで、不正確がそのまま蔓延するようなことにもなるため注意が必要である。また、確かながんに関する情報群を参照情報として限定した生成AIチャットボットは、ハルシネーションを減少できる利点を有する事から、長大な情報の中からエビデンスに基づいた科学的に妥当な情報源を得る手段として利用できる可能性があるものの、一般向けシステムとしては、参照する情報源となるWebサイト自体のテキストの工夫や質問内容に対するプロンプトの改良が現状では必要であると考えられた。

以上より、がん関連機関の情報連携環境の構築をもとにした“信頼できる情報群”からなる相談員や医療者向け情報支援データベースの整備において、開発の目的に対するシステム毎の特色や情報提供可能な範囲を見極めることが重要である。また、それぞれのシステムにおけるアウトプットの特性を正確に評価する事により実社会において有用なシステムの実装が実現できると考えられた。引き続きシステムの精度を向上すべく検討を重ねることを行っていく。

がん情報サービスから製薬企業等の営利企業が運営するウェブサイトへのリンクを設置することで、患者や家族が入手できる情報の種類が広がり、利便性が向上する可能性があると考えられた。しかし、薬機法により患者へ情報提供が広告とみなされ、禁止されていることが、最大の阻害要因となっているなか、時代に合った解釈の見直しを提案するとともに、がん情報サービスから営利企業が作成する患者向けウェブサイトへのリンクを設置するためには、情報の質を担保する方法、情報の責任の所在の整理や、これらを利用者に明示する方法が必要であると考えられる。

(2) 患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報検索システムの検討及び検証

補完代替療法に関する一般市民への情報提供は、潜在的にがんと診断される可能性のある一般市民に対して、一般的にあまり知られていない内容を含む広範な補完代替療法の特徴とリスクについて、科学的根拠に基づく最新の情報を分かりやすく提供することによりこれらの適切な医療を受ける機会の損失、副作用、医療費に関する経済的損失などの医療被害を防ぐことにつながると考えられた。

不特定多数を対象とするWebを通じたがんに関する情報提供においては、アクセス目的別のページ誘導、ページ構成の工夫が必要であり、これによって探していた情報を入手できる人の割合はより高くなる可能性があると考えられた。今後は、アクセス目的別の情報の探索状況をさらに詳細に分析・把握し、がん情報サービスにおけるアクセス目的別の情報提供について検討するとともに、がん情報サービス以外の情報提供媒体が活用できるような形式でのアクセス目的別のwebサイト内のコンテンツへの誘導方法の検討や、その方法の周知が必要であると考えられた。

「情報を絞った分かりやすいページ群」については、一部ページの要約の初期作業を経て、情報の量と粒度について一定の基準を設け、着手したページの要約を完成させる。「患者の意思決定をサポートするナラティブ情報」については、看護師へのヒアリングの準備を行った。次年度にヒアリングを実施し、具体的なニーズを理解することにより、患者・家族のニーズに基づく情報提供のあり方について検討する。

モジュール化により、がん種と病期（ステージ）で検索されたときにがん情報サービスへのアクセス数が増加する結果となったことより、キーワードとともに検索されることが多いサブキーワードがリストされることにもよると考えられた。がん情報サービスへの流入が、科学的根拠に乏しいがん治療へのアクセスが少なくなる効果を測定することは困難であるものの、がん情報サービスへの流入増加分のうちの相当部分は広告を主体とする検索上位サイトへのアクセス減少につながる可能性が見込まれる。

患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報

検索システムの検討及び検証において、情報の受け手側のニーズや背景特性を把握しつつ、正確かつ分かりやすいがんに関する情報を提供する事が重要である。また、広く一般市民に対し、確かな情報を届ける目的において、検索システムにおける環境整備や科学的根拠に乏しいがん治療へ流入を制限する有効な方策を引き続き検討していく。

### (3) がん診断時等の患者にがん診療施設（がん非拠点病院を含む）で適切に情報提供する方策の検討

各地域や施設ごとに置かれた状況はさまざまである。したがって、好事例を多く集め、関係者間で共有することによって、各施設での体制整備のヒントになるのではないかと考えられる。好事例となる事例を収集し、提示する事により、がん診療連携拠点病院内外における適切な情報提供の方策が検討できると考えられた。

がん診断時等にごがん診療施設で効果的に情報提供するためには、院内の医療者（特に医師）にごがん相談センターの存在・意義を理解してもらう必要がある。また、患者にはごがん診療連携拠点病院にはごがん相談センターがあり、誰でも、いつでも、治療以外の様々な相談にも応じてくれることを周知する必要がある。今回の様々な取り組みは、患者にごがん情報提供するのに有効であった。

臨床の現場で相談支援や情報提供に関して数多くの活動を実施している事に対し、このような活動が全国でどの様に、どの程度行われているかは、常に情報を共有して自施設・自県の立ち位置を認識して改善につなげる必要がある。また、最も重要なことは、我々ががん診療連携拠点病院のがんに関する情報提供活動により、正しい情報ががん患者や家族に過不足なく届いているかの検証を常に行うことである。そのためには、患者参加型研究の推進が求められると考える。がん非拠点病院を含めた適切な情報を届ける方策の検討はなされておらず、今後の課題である。

病院でのごがんサロンや勉強会の開催では、受診中の参加者が中心となり、病院外での開催により参加者数は増加した。また、患者会との合同会議により、医療者が企画する内容とは異なった視点が加わることで、啓発効果が上がったのではないかと考える。情報提供方法は様々あり、効果的な方法を模索する必要は今後もある。また、患者会の参加は必須であるといえる。

がん診断時等の患者にごがん診療施設で適切に情報提供する方策では、地域や施設ごとに様々な取り組みや活動により、相談支援センターの周知や適切な情報提供のあり方についての検討がなされていた。これらの好事例を収集し提示する事が、本テーマを推進する事につながると考えられた。今後は、全国的な視点で、どのような活動がどのような効果をもたらすか、その検証が必要である

## E. 結論

本研究では、1. がん関連機関の情報連携環境の構築をもとにした“信頼できる情報群”からなる相談員や医療者向け情報支援データベースの整備。2. 患者や国民が必要な情報にアクセスしやすい情報検索システムの検討及び検証。3. がん診断時等の患者にごがん診療施設で適切に情報提供する方策の検討の3つの観点から検討を行った。1. では、ガイドラインの横断的検索システムと生成AIを連携することで、相談員に有用な情報支援データベースの実現の可能性があること、製薬企業の薬剤情報は、正確かつ新鮮な情報源として、大きな期待がされるが、患者への直接提供には、薬機法等の解釈の見直しが必要であると考えられた。2. では、情報が増大する中、アクセス目的別のページ誘導、ページ構成の工夫や情報を絞った分かりやすいページ群が有用であると考えられる。さらに、情報の入り口となる検索エンジンに適切な情報への誘導する仕組みが、必要であると考えられた。3. では、各地域や施設ごとに置かれた状況はさまざまであるなか、好事例となる事例を収集し、提示する事により、がん診療連携拠点病院内外における適切な情報提供の方策が検討できると考えられた。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1). 竹村 信行, 稲垣 冬樹, 三原 史規, 市田 晃彦, 金子 順一, 長谷川 潔, 國土 典宏. 門脈圧亢進症状を伴う肝細胞癌患者に対する周術期のマネジメントと短期・長期成績(総説). 日本門脈圧亢進症学会雑誌29. 215-219. 2023
- 2). 市田 晃彦, 長谷川 潔 【薬物療法によって変貌する肝細胞癌治療:2023 Update】 Early stage肝細胞癌 Phase 3 adjuvant試験(IMbrave050 trial)の結果とその解釈. 肝胆膵. 87. 389-395. 2023
- 3). 赤松延久, 市田晃彦, 長谷川潔. 【再発肝細胞癌:再肝切除vs.サルベージ生体肝移植】. ルベージ生体肝移植の立場から. 消化器外科. 46. 1122-1127. 2023
- 4). 市田 晃彦, 長谷川 潔. 【外科医によるこれからの癌薬物療法-最新知識と安全で効果的な遂行のコツ】. 肝癌における薬物療法(解説). 日本外科学会雑誌. 124. 404-409. 2023
- 5). 河口 義邦, 赤松 延久, 長谷川 潔. 【肝疾患-診療のチェックポイント2023】 (第II部)治療のチェックポイント(第13章). 肝細胞癌の外科治療と生体肝移植のチェックポイント(解説). 臨床消化器内科. 38. 974-980. 2023
- 6). Oyama H, Hamada T, Nakai Y, Tanaka M, Takagi K, Fukuda R, Hakuta R, Ishigaki K, Kanai S, Kawaguchi Y, Kurihara K, Nishio H, Noguchi K, Saito T, Sato T, Suzuki T, Suzuki Y, Takaoka S, Tange S, Takahara N, Hasegawa K, Ushiku T, Fujishiro M. Intraductal Papillary Mucinous Neo

- plasm Surveillance Leads to Early Diagnosis and Better Outcomes of Concomitant Cancer. *Ann Surg*. Published online. doi:10.1097/SLA.00000000000006268. 2024
- 7). Holzner ML, Mazzaferro V, Busset MDD, Aldrig hetti L, Ratti F, Hasegawa K, Arita J, Sapisochin G, Abreu P, Schoning W, Schmelzle M, Nevermann N, Pratschke J, Florman S, Halazun K, Schwartz ME, Tabrizian P. Is Repeat Resection for Recurrent Intrahepatic Cholangiocarcinoma Warranted? Outcomes of an International Analysis. *Ann Surg Oncol*. Published online. doi:10.1245/s10434-024-14975-w. 2024
  - 8). Kanai S, Fujiwara H, Mizuno S, Kishikawa T, Nakatsuka T, Hamada T, Tanaka M, Arita J, Naka i Y, Isayama H, Kasuga M, Tateishi R, Tateishi K, Ushiku T, Hasegawa K, Koike K, Fujishiro M. Increased expression of TNFRSF14 and LIG HT in biliary epithelial cells of patients with primary sclerosing cholangitis. *Dig Liver Dis*. 56. 3 05-311. 2023
  - 9). Akahoshi K, Shindoh J, Tanabe M, Watanabe S, Takamizawa H, Eguchi S, Endo I, Kubo S, Take tomi A, Nagano H, Nakamura M, Hasegawa K, Hatano E, Yoshizumi T, Kokudo N. Questionnaire survey of Japanese board-certified expert hepatobiliary and pancreatic surgeons and instructors on the surgical indications for hepatocellular carcinoma. *J Hepatobiliary. Pancreat Sci*. 31. 143-151. 2 024
  - 10). Okushin K, Tateishi R, Hirakawa S, Tachimori H, Uchino K, Nakagomi R, Yamada T, Nakatsuka T, Minami T, Sato M, Fujishiro M, Hasegawa K, Eguchi Y, Kanto T, Yoshiji H, Izumi N, Kudo M, Koike K. The impact of COVID-19 on the diagnosis and treatment of HCC: analysis of a nationwide registry for advanced liver diseases (REAL). *Sci Rep*. 14. 2826. 2024
  - 11). Chu KJ, Kawaguchi Y, Wang H, Jiang XQ, Hasegawa K. Update on the Diagnosis and Treatment of Combined Hepatocellular Cholangiocarcinoma. *J Clin Transl Hepatol*. 12. 210-217. 2024
  - 12). Gorris M, van Bodegraven EA, Abu Hilal M, Bolm L, Busch OR, Del Chiaro M, Habib J, Hasegawa K, He J, van Hooft JE, Jang JY, Javed AA, Kazami Y, Kwon W, Lee M, Liu R, Motoi F, Perri G, Saiura A, Sallia R, Sasanuma H, Takeda Y, Wolfgang C, Zelga P, Castillo CF, Marchegiani G, Besselink MG. Outcomes after distal pancreatectomy with or without splenectomy for intra ductal papillary mucinous neoplasm: international multicentre cohort study. *Br J Surg*. 111. znad42 4. 2024
  - 13). Maki H, Kawaguchi Y, Nagata R, Mihara Y, Ichida A, Ishizawa T, Akamatsu N, Kaneko J, Arita J, Hasegawa K. Conditional Recurrence Analysis of Intrahepatic Cholangiocarcinoma: Changes in Recurrence Rate and Survival after Recurrence Resection by Disease-free Interval. *Hepatol Res*. 53. 1224-1234. 2023
  - 14). Takao M, Kawaguchi Y, Matsumura M, Kazami Y, Tanimoto M, Abe S, Maki H, Ishizawa T, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Kokudo N, Hasegawa K. Probe-based confocal laser endomicroscopy for real-time evaluation of colorectal liver metastasis in resected surgical specimens. *Hum Cell*. 36. 2066-2073. 2023
  - 15). Kokudo T, Kokudo N, Hasegawa K. Oncological benefit of anatomic resection for patients with hepatocellular carcinoma. *Surg Today*. 53. 1216. 20 23
  - 16). Lim C, Scatton O, Wu AGR, Zhang W, Hasegawa K, Cipriani F, Sijberden J, Aghayan DL, Siow TF, Dokmak S, Herman P, Marino MV, Mazzaferro V, Chiow AKH, Sucandy I, Ivanecz A, Chohi SH, Lee JH, Prieto M, Vivarelli M, Giuliantef F, Ruzzenente A, Yong CC, Yin M, Fondevila C, Efanov M, Morise Z, Di Benedetto F, Brustia R, Dalla Valle R, Boggi U, Geller D, Belli A, Memeo R, Gruttadauria S, Mejia A, Park JO, Rotellar F, Choi GH, Robles-Campos R, Wang X, Sutcliffe RP, Pratschke J, Lai ECH, Chong CCN, D'Hondt M, Monden K, Lopez-Ben S, Kingham TP, Ferrero A, Ettore GM, Cherqui D, Liang X, Soubrane O, Wakabayashi G, Troisi RI, Cheung TT, Sugioka A, Han HS, Long TCD, Liu R, Edwin B, Fuks D, Chen KH, Abu Hilal M, Aldrig hetti L, Goh BKP; International robotic and laparoscopic liver resection study group investigators. Impact of liver cirrhosis and portal hypertension on minimally invasive limited liver resection for primary liver malignancies in the posterosuperior segments: An international multicenter study. *Eur J Surg Oncol*. 49. 106997. 2023
  - 17). Kataoka K, Takahashi K, Takeuchi J, Ito K, Bepu N, Ceelen W, Kanemitsu Y, Ajioka Y, Endo I, Hasegawa K, Takahashi K, Ikeda M. Author response to: Comment on: Correlation between recurrence-free survival and overall survival after upfront surgery for resected colorectal liver metastases. *Br J Surg*. 110. 1407. 2023
  - 18). Masugi Y, Takamatsu M, Tanaka M, Hara K, Inoue Y, Hamada T, Suzuki T, Arita J, Hirose Y, Kawaguchi Y, Nakai Y, Oba A, Sasahira N, Shimane G, Takeda T, Tateishi K, Uemura S, Fujishiro M, Hasegawa K, Kitago M, Takahashi Y, Ushiku T, Takeuchi K, Sakamoto M; GTK Pancreatic Cancer Study Group in Japan. Post-operative mortality and recurrence patterns in pancreatic cancer according to KRAS mutation and CDKN2A, p53, and SMAD4 expression. *J Pathol Clin Res*. 9. 339-353. 2023
  - 19). Coelho FF, Herman P, Kruger JAP, Wu AGR, Chin KM, Hasegawa K, Zhang W, Alzoubi M, Aghayan DL, Siow TF, Scatton O, Kingham TP, Marino MV, Mazzaferro V, Chiow AKH, Sucandy I, Ivanecz A, Choi SH, Lee JH, Gastaca M, Vivarelli M, Giuliantef F, Ruzzenente A, Yong CC, Dokmak S, Fondevila C, Efanov M, Morise Z, Di Benedetto F, Brustia R, Valle RD, Boggi U, Geller D, Belli A, Memeo R, Gruttadauria S, Mejia A, Park JO, Rotellar F, Choi GH, Robles-Campos R, Wang X, Sutcliffe RP, Pratschke J, Lai ECH, Chong CCN, D'Hondt M, Monden K, Lopez-Ben S, Liu R, Ferrero A, Ettore GM, Cipriani F, Cherqui D, Liang X, Soubrane O, Wakabayas

- hi G, Troisi RI, Yin M, Cheung TT, Sugioka A, Han HS, Long TCD, Fuks D, Abu Hilal M, Chen KH, Aldrighetti L, Edwin B, Goh BKP; International Robotic and Laparoscopic Liver Resection study group investigators are coauthors of this study. Impact of liver cirrhosis, the severity of cirrhosis, and portal hypertension on the outcomes of minimally invasive left lateral sectionectomies for primary liver malignancies. *Surgery*. 174. 581-592. 2023
- 20). Ichida A, Kokudo T, Shimada S, Hatano E, Kubo S, Kato Y, Ishikawa Y, Mori A, Baba H, Matsuyama Y, Endo I, Yamaue H, Yamamoto M, Kokudo N, Hasegawa K. Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma with Tumor Thrombus in the Inferior Vena Cava or Right Atrium: A Large-scale Multicenter Survey Conducted in Japan. *Ann Surg*. 278. e549-e555. 2023
  - 21). Yoshizaki Y, Kawaguchi Y, Seki Y, Sasaki S, Ichida A, Akamatsu N, Kaneko J, Arita J, Hasegawa K. Posthepatectomy but not prehepatectomy chemotherapy was associated with a longer time to recurrence in patients with resectable colorectal liver metastases: Inverse probability of treatment weighting analysis. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 23. 780. 2023
  - 22). Okuno M, Ishii T, Ichida A, Soyama A, Takemura N, Hirono S, Eguchi S, Hasegawa K, Sasaki Y, Uemura K, Kokudo N, Hatano E. Protocol of the RACB study: a multicenter, single-arm, prospective study to evaluate the efficacy of resection of initially unresectable hepatocellular carcinoma with atezolizumab combined with bevacizumab. *Abdom Radiol (NY)*. 23. 780. 2023
  - 23). Nakaya M, Nakai Y, Takahashi M, Fukukura Y, Sato K, Kameda A, Tashiro Y, Kageyama S, Sofue K, Nakano T, Yoshimitsu K, Marugami N, Takeyama N, Tanaka M, Hasegawa K, Watadani T. Intraductal oncocytic papillary neoplasm of the pancreas: clinical and radiological features compared to those of intraductal papillary mucinous neoplasm. *Abdom Radiol (NY)*. 48. 2483-2493. 2023
  - 24). Kanemaru N, Nakai Y, Watadani T, Nakao T, Hinata M, Nakazawa A, Akamatsu N, Ushiku T, Hasegawa K, Abe O. Multimodal imaging findings of intrahepatic cholangiocarcinoma arising from a biliary adenofibroma: a case report with radiological-pathological correlation. *Hepatol Commun*. 48. 2469-2476. 2023
  - 25). Yamada T, Fujiwara N, Kubota N, Matsushita Y, Nakatsuka T, Kurosaki S, Minami T, Tateishi R, Ichida A, Arita J, Hasegawa K, Koike K, Fujishiro M, Nakagawa H. Lenvatinib recruits cytotoxic GZMK+CD8 T cells in hepatocellular carcinoma. *Clin Gastroenterol Hepatol*. 7. e0209. 2023
  - 26). Hamada T, Oyama H, Nakai Y, Tange S, Arita J, Hakuta R, Ijichi H, Ishigaki K, Kanai S, Kawaguchi Y, Kogure H, Mizuno S, Saito K, Saito T, Sato T, Suzuki T, Takahara N, Tanaka M, Tateishi K, Ushiku T, Hasegawa K, Fujishiro M. Clinical Outcomes of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms With Dilatation of the Main Pancreatic Duct. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 21. 1792-1801. 2023
  - 27). Kataoka K, Takahashi K, Takeuchi J, Ito K, Beppu N, Ceelen W, Kanemitsu Y, Ajioka Y, Endo I, Hasegawa K, Takahashi K, Ikeda M. Correlation between recurrence-free survival and overall survival after upfront surgery for resected colorectal liver metastases. *JCEM Case Rep*. 110864-869. 2023
  - 28). Horikoshi H, Arita J, Hasegawa K, Makita N. "A Novel Pathogenic MEN1 Gene Variant Identified in a Family with Multiple Pancreatic Neuroendocrine Tumors. *Liver Cancer*. 1. luad078. 2023
  - 29). Kawaguchi Y, Tateishi R, Kokudo N, Hasegawa K. Surgical Resection or Radiofrequency Ablation for Small Hepatocellular Carcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 17. 117-125. 2023
  - 30). Beppu T, Yamamura K, Sakamoto K, Honda G, Kobayashi S, Endo I, Hasegawa K, Kotake K, Itabashi M, Hashiguchi Y, Kotera Y, Yamaguchi T, Natsume S, Tabuchi K, Kobayashi H, Yamaguchi K, Morita S, Kikuchi K, Miyazaki M, Sugihara K, Yamamoto M, Takahashi K; Joint Committee for Nationwide Survey on Colorectal Liver Metastasis. Validation study of the JSHBPS nomogram for patients with colorectal liver metastases who underwent hepatic resection in the recent era - a nationwide survey in Japan. *Biosci Trends*. 30. 591-601. 2023
  - 31). Karako K, Mihara Y, Hasegawa K, Chen Y. Improving the sensitivity of liver tumor classification in ultrasound images via a power-law shot noise model. *Hepatol Res*. 17. 117-125. 2023
  - 32). Hasegawa K, Takemura N, Yamashita T, Watadani T, Kaibori M, Kubo S, Shimada M, Nagano H, Hatano E, Aikata H, Iijima H, Ueshima K, Ohkawa K, Genda T, Tsuchiya K, Torimura T, Ikeda M, Furuse J, Akahane M, Kobayashi S, Sakurai H, Takeda A, Murakami T, Motosugi U, Matsuyama Y, Kudo M, Tateishi R. Clinical Practice Guidelines for Hepatocellular Carcinoma: The Japan Society of Hepatology 2021 Version (5th JSH-HCC Guidelines). *HPB (Oxford)*. 53. 383-390. 2023
  - 33). Sakamoto K, Beppu T, Honda G, Kotake K, Yamamoto M, Takahashi K, Endo I, Hasegawa K, Itabashi M, Hashiguchi Y, Kotera Y, Kobayashi S, Yamaguchi T, Natsume S, Tabuchi K, Kobayashi H, Yamaguchi K, Tani K, Morita S, Miyazaki M, Sugihara K. Comprehensive data of 4502 patients newly diagnosed with colorectal liver metastasis between 2015 and 2017, and prognostic data of 2427 patients newly diagnosed with colorectal liver metastasis in 2013 and 2014: Third report of a nationwide survey in Japan. *Abdom Radiol (NY)*. 30. 570-590. 2023
  - 34). Kiritani S, Iwano T, Yoshimura K, Saito R, Nakayama T, Yamamoto D, Hakoda H, Watanabe G, Akamatsu N, Arita J, Kaneko J, Takeda S, Ichikawa D, Hasegawa K. ASO Visual Abstract: New Diagnostic Modality Combining Mass Spectrometry and Machine Learning for the Discrimination of Malignant Intraductal Papillary Mucinous N

- eoplasms. *Ann Surg Oncol.* 30. 3158-3159. 2023
- 35). Kiritani S, Iwano T, Yoshimura K, Saito R, Nakayama T, Yamamoto D, Hakoda H, Watanabe G, Akamatsu N, Arita J, Kaneko J, Takeda S, Ichi kawa D, Hasegawa K. New Diagnostic Modality Combining Mass Spectrometry and Machine Learning for the Discrimination of Malignant Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms. *Ann Surg Oncol.* 30. 3150-3157. 2023
  - 36). Takahashi R, Ishizawa T, Inagaki Y, Tanaka M, Ogasawara A, Kuriki Y, Fujita K, Kamiya M, Ushiku T, Urano Y, Hasegawa K. Real-Time Fluorescence Imaging to Identify Cholangiocarcinoma in the Extrahepatic Biliary Tree Using an Enzyme-Activatable Probe. *Liver Cancer.* 12. 590-602. 2023
  - 37). Otani H, Amano K, Morita T, Miura T, Mori N, Tatara R, Kessoku T, Tokoro A, Tagami K, Mori M, Taniyama T, Nakajima N, Nakanishi E, Kako J, Miyashita M. Difficulty swallowing and food bolus obstruction in advanced cancer: association with the cachexia-related quality of life. *Ann Palliat Med.* 12. 717-728. 2023
  - 38). Sekine I. Clinical development of immune checkpoint inhibitors in Japan-the same goal, different paths. *Jpn J Clin Oncol.* 3. 085. 2023
  - 39). Nakamura M, Ishikawa H, Ohnishi K, Mori Y, Baba K, Nakazawa K, Shiozawa T, Sekine I, Maruo K, Okumura T, Sakurai H. Effects of lymphopenia on survival in proton therapy with chemotherapy for non-small cell lung cancer. *J Radiat Res.* 23;64(2). 438-447. 2023
  - 40). Naito Y, Mishima S, Akagi K, Hayashi N, Hirasawa A, Hishiki T, Igarashi A, Ikeda M, Kadowa ki S, Kajiyama H, Kato M, Kenmotsu H, Kodera Y, Komine K, Koyama T, Maeda O, Miyachi M, Nishihara H, Nishiyama H, Ohga S, Okamoto W, Oki E, Ono S, Sanada M, Sekine I, Takano T, Tao K, Terashima K, Tsuchihara K, Yatabe Y, Yoshino T, Baba E. Japanese Society of Medical Oncology/Japan Society of Clinical Oncology/Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of tropomyosin receptor kinase inhibitors in adult and pediatric patients with neurotrophic receptor tyrosine kinase fusion-positive advanced solid tumors. *Int J Clin Oncol.* 28(7). 827-840. 2023
  - 41). Mishima S, Naito Y, Akagi K, Hayashi N, Hirasawa A, Hishiki T, Igarashi A, Ikeda M, Kadowa ki S, Kajiyama H, Kato M, Kenmotsu H, Kodera Y, Komine K, Koyama T, Maeda O, Miyachi M, Nishihara H, Nishiyama H, Ohga S, Okamoto W, Oki E, Ono S, Sanada M, Sekine I, Takano T, Tao K, Terashima K, Tsuchihara K, Yatabe Y, Yoshino T, Baba E. Japanese Society of Medical Oncology/Japan Society of Clinical Oncology/Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of immunotherapy in patients with high tumor mutational burden tumors. *Int J Clin Oncol.* 28(8). 941-955. 2023
  - 42). Mishima S, Naito Y, Akagi K, Hayashi N, Hirasawa A, Hishiki T, Igarashi A, Ikeda M, Kadowa ki S, Kajiyama H, Kato M, Kenmotsu H, Kodera Y, Komine K, Koyama T, Maeda O, Miyachi M, Nishihara H, Nishiyama H, Ohga S, Okamoto W, Oki E, Ono S, Sanada M, Sekine I, Takano T, Tao K, Terashima K, Tsuchihara K, Yatabe Y, Yoshino T, Baba E. Japanese Society of Medical Oncology/Japan Society of Clinical Oncology/Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology-led clinical recommendations on the diagnosis and use of immunotherapy in patients with DNA mismatch repair deficient (dMMR) tumors, third edition. *Int J Clin Oncol.* 28(10). 1237-1258. 2023
  - 43). Nishijima TF, Shimokawa M, Esaki T, Morita M, Toh Y, Muss HB. Comprehensive geriatric assessment: Valuation and patient preferences in older Japanese adults with cancer. *J Am Geriatr Soc.* 71:259-267, 2023
  - 44). Watanabe M, Toh Y, Ishihara R, Kono K, Matsubara H, Miyazaki T, Morita M, Murakami K, Muro K, Numasaki H, Oyama T, Saeki H, Tanaka K, Tsushima T, Ueno M, Uno T, Yoshio T, Usune S, Takahashi A, Miyata H, Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society. Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2015. *Esophagus.* 20: 1-28, 2023
  - 45). Okamura A, Endo H, Watanabe M, Yamamoto H, Kikuchi H, Kanaji S, Toh Y, Kakeji Y, Doki Y, Kitagawa Y. Influence of patient position in the transoral esophagectomy on postoperative pneumonia: a comparative analysis from the National Clinical Database in Japan. *Esophagus.* 20: 45-54, 2023
  - 46). Murakami K, Akutsu Y, Miyata H, Toh Y, Toyozumi T, Kakeji Y, Seto Y, Matsubara H. Essential risk factors for operative mortality in elderly esophageal cancer patients registered in the National Clinical Database of Japan. *Esophagus.* 20:39-47, 2023
  - 47). Sakai M, Saeki H, Sohda M, Korematsu M, Miyata H, Murakami D, Baba Y, Ishii R, Okamoto H, Shibata T, Shirabe K, Toh Y, Shiotani A. The Japan Broncho-Esophagological Society. Primary tracheobronchial necrosis after esophagectomy: A nationwide multicenter retrospective study in Japan. *Ann Gastroenterol Surg.* 7: 236-246, 2023
  - 48). Kitagawa Y, Ishihara R, Ishikawa H, Ito Y, Oyama T, Oyama T, Kato K, Kato H, Kawakubo H, Kawachi H, Kuribayashi S, Kono K, Kojima T, Takeuchi H, Tsushima T, Toh Y, Nemoto K, Boka E, Makino T, Matsuda S, Matsubara H, Mano M, Minashi K, Miyazaki T, Muto M, Yamaji T, Yamatsuji T, Yoshida M. Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan esophageal society: part 1. *Esophagus.* 20: 343-372, 2023
  - 49). Kitagawa Y, Ishihara R, Ishikawa H, Ito Y, Oyama T, Oyama T, Kato K, Kato H, Kawakubo H, Kawachi H, Kuribayashi S, Kono K, Kojima T, Takeuchi H, Tsushima T, Toh Y, Nemoto K, Boka E, Makino T, Matsuda S, Matsubara H, Man



- o M, Minashi K, Miyazaki T, Muto M, Yamaji T, Yamatsuji T, Yoshida M. Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan Esophageal Society: part 2. Esophagus. 20: 373-389, 2023
- 50). Nishijima TF, Shimokawa M, Komoda M, Hanamura F, Okumura Y, Morita M, Toh Y, Esaki T, Muss HB. Survival in Older Japanese Adults With Advanced Cancer Before and After Implementation of a Geriatric Oncology Service. JCO Oncol Pract. 19: 1125-1132, 2023
- 51). Yamamoto H, Nashimoto A, Miyashiro I, Miyata H, Toh Y, Gotoh M, Kodera Y, Kakeji Y, Seto Y. Impact of a board certification system and adherence to the clinical practice guidelines for gastric cancer on risk-adjusted surgical mortality after distal and total gastrectomy in Japan: a questionnaire survey of departments registered in the National Clinical Database. Surgery Today. 54: 459-470, 2023
- 52). Shimagaki T, Sugimachi K, Mano Y, Onishi E, Iguchi T, Nakashima Y, Sugiyama M, Yamamoto M, Morita M, Toh Y. Cachexia index as a prognostic predictor after resection of pancreatic ductal adenocarcinoma. Ann Gastroenterol Surg. 7: 977-986, 2023
- 53). Agatsuma N, Utsumi T, Nishikawa Y, Horimatsu T, Seta T, Yamashita Y, Tanaka Y, Inoue T, Nakanishi Y, Shimizu T, Ohno M, Fukushima A, Nakayama T, Seno H. Stage at diagnosis of colorectal cancer through diagnostic route: Who should be screened? World J Gastroenterol. 30(10). 1368-1376. 2024
- 54). Miyazaki K, Ikenaga M, Sato T, Ueshima K, Nawata S, Horimatsu T, Komori E, Kirishima T, Kawabata K, Kawamura T, Kasai H, Suzukamo Y, Matsuzaki K, Kuwabara Y, Nakayama T; PASQol Study Group. A Randomized Controlled Trial of Betamethasone on Fatigue in Patients With Advanced Cancer. J Pain Symptom Manage. 67(5). 393-401. 2024
- 55). Nishikawa Y, Agatsuma N, Utsumi T, Funakoshi T, Mori Y, Nakamura Y, Hoshino N, Horimatsu T, Saito T, Kashihara S, Fukuyoshi J, Goto R, Toi M, Takahashi Y, Nakayama T. Medical care costs according to the stage and subtype of breast cancer in a municipal setting: a case study of Hachioji City, Japan. Breast Cancer. 31(1). 105-115. 2024
- 56). Morimoto K, Moriwaki K, Shimoizuma K, Nakayama T. Cost-effectiveness analysis of nivolumab plus chemotherapy vs chemotherapy for patients with unresectable advanced or metastatic HER2-negative gastric or gastroesophageal junction or esophageal adenocarcinoma in Japan. J Gastroenterol. 58(12). 1188-1197. 2023
- 57). Hinata M, Miyazaki K, Nakayama T, Tokunaga M, Watanabe T, Nawata S. Encouraging outpatients in an acute hospital for the relief of cancer-related pain: a qualitative study. BMC Palliat Care. 22(1). 109. 2023
- 58). Shimamoto T, Tateyama Y, Kobayashi D, Yamamoto K, Takahashi Y, Ueshima H, Sasaki K, Nakayama T, Iwami T. Survival and medical costs of non-small cell lung cancer patients according to the first-line treatment: An observational study using the Kyoto City Integrated Database. Thorac Cancer. 14(17). 1574-1580. 2023
- 59). Sakakibara A, Nakayama T, Uchida H, Odagiri Y, Ito Y, Katayama T, Ueda Y, Higuchi T, Terakawa K, Matsui K, Miyazaki K, Konishi I. Trends and future projections of cervical cancer-related outcomes in Japan: What happens if the HPV vaccine program is not implemented? Int J Cancer. 152(9). 1863-1874. 2023
- 60). 奥村 晃子. がん診療ガイドラインの普及・評価と問題点について. 腫瘍内科. 31(5). 586-592. 2023
- 61). 高山 智子, 齋藤 弓子, 奥野 順子, 花出 正美, 高橋 朋子, 小郷 祐子, 若尾 文彦. がん専門相談員の診療ガイドラインの利用状況と利用に及ぼす背景要因の検討. 医療の質・安全学会誌. 18(4). 399-413 2023
- 62). John T, Grohé C, Goldman JW, Shepherd FA, de Marinis F, Kato T, Wang Q, Su WC, Choi JH, Sriuranpong V, Melotti B, Fidler MJ, Chen J, Albayaty M, Stachowiak M, Taggart S, Wu YL, Tsuboi M, Herbst RS, Majem M. Three-Year Safety, Tolerability, and Health-Related Quality of Life Outcomes of Adjuvant Osimertinib in Patients with Resected Stage IB to IIIA EGFR-Mutated NSCLC: Updated Analysis from the Phase 3 ADAURA Trial. J Thorac Oncol. 18. 1209-1221. 2023
- 63). Tsuboi M, Herbst RS, John T, Kato T, Majem M, Grohé C, Wang J, Goldman JW, Lu S, Su WC, de Marinis F, Shepherd FA, Lee KH, Le NT, Dechaphunkul A, Kowalski D, Poole L, Bolanos A, Rukazenzov Y, Wu YL; ADAURA Investigators. Overall Survival with Osimertinib in Resected EGFR-Mutated NSCLC. N Engl J Med. 389. 137-147. 2023
2. 学会発表
- 1). 西迫宗大, 齋藤弓子, 堀抜文香, 瀬崎彩也子, 八巻知香子, 高山智子, 若尾文彦. 一般市民におけるがんと診断された場合の補完代替療法の利用意向に関する実態, 第61回日本癌治療学会学術集会, 横浜市, 口頭発表, 2023/10/19-21
- 2). 堀抜文香, 齋藤弓子, 平野公康, 八巻知香子, 高山智子, 若尾文彦. 情報は利用者に届いているか? : 「がん情報サービス」利用者調査アクセス目的別の検討. 第61回日本癌治療学会学

術集会, 2023. 10. 横浜

- 3). 堀抜文香、齋藤弓子、瀬崎彩也子、西迫宗大、八巻知香子、高山智子、若尾文彦. 公的機関のがん情報提供webサイトで営利企業webサイトを紹介することへの利用者の意識. 第82回日本公衆衛生学会総会, 2023. 10. つくば

### 3. 書籍

- 1). Sharon E.Straus/Paul Glasziou/W.Sott Richardson/R.Brian Haynes (中山健夫: 監訳). Evidence-Based Medicine: How to Practice and Teach EBM, Fifth Edition Sharon E. Straus/Paul/laszio/W.Sott Richardson/R.Brian Haynes. EBM:根拠に基づく医療 実践と教育の方法. インターメディカ. 東京 2023年

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし